

平成29年度事業報告

概要

平成29年夏は、7月22日から8月26日までの36日間連続降雨を記録し、この記録は昭和9年以来83年ぶりの更新となり、このことにより、本市の基幹作物である水稲をはじめ大豆、果樹等に甚大な被害をもたらしました。水稲作柄は宮城県全体で99の「平年並み」となりましたが、南部は95の「やや不良」で、そうした中、米価は3年連続上昇しましたが減収分を補填するまでには至りませんでした。また、米の直接支払が29年度で終了しております。

現在、全国的に大きな課題となっているのが、農業の生産現場では労働力不足が深刻化していることで、担い手の規模拡大や農業法人の増加で雇用労働力を必要とする一方、全産業的な人手不足もあり、収穫期など短期的アルバイトの確保も難しい状況で、経営の維持・拡大にも支障が生じかねない状態であります。また、農作業効率化や低コスト化のためにも担い手や農業法人に対して農地の集約化を図ることが急務であります。この課題に対応すべく、平成26年度から宮城県農地中間管理機構であるみやぎ農業振興公社と業務委託契約を締結し、農地中間管理事業を推進し、従前より実施している農地利用集積円滑化事業と並行し事業推進を実施しております。本社の農地利用集積円滑化事業による累計面積は、平成29年度年度末で、1,245ha。農地中間管理機構による累計面積は、平成29年度末で、320haになりました。

農業経営改善支援事業については、農業経営改善計画（認定農業者の申請）の作成支援・審査、角田市農業青色申告会活動の支援等を行ってきました。また、今年度は農業簿記検定試験（3級・2級）を関係機関職員等9名が受験し3級が8名、2級が1名合格しています。

あぶくま農学校の関係では、特に、角田の次代を担う若い人たちの育成の場としてきた「風の塾」は角田市農業経営者会議や角田地域担い手育成総合支援協議会と共催しながら、若手経営者を全国担い手サミットへの参加支援等を行いました。また、「土の塾」も引き続き開催してきました。農業経営実践塾については本年も、東京都目黒区の「商工まつり」「消費生活展」のイベントへ参加する出前塾という形で参加しました。

都市消費者等交流の事業では、目黒区小学生と市内3小学校の農村交流体験は正式な形では今年も実現できませんでした。一方で、田植え、稲刈りの時期に「有志」という形での交流が活発に行われるようになってきています。そのほか、「みどりの交流事業」や「特別会員事業」、従来からの「商工まつり」「消費生活展」「雪まつり」の他に「自由が丘女神まつり」「大岡山フェスタ」新たなイベント参加で、角田の農産物の紹介や交流を行ってきました。

以上、平成29年度の主な事業活動の概要についてご報告いたしました。